水分　0.30%以下（直接滴定）
強熱残分　0.05%以下（2g）
定量法　本品約0.3gを0.001gの桁まで量り、その数値を記録し、アセトン50mLを加えて溶かし、水50mL及び希硫酸20mLを加え、0.1mol/L硫酸第二セリウムアンモニウム溶液で滴定する（指示薬　*o*-フェナントロリン試液0.2mL）。同様の方法で空試験を行い補正する。
0.1mol/L硫酸第二セリウムアンモニウム溶液1mL＝9.012mg$C_{11}H_{16}O_2$
(イ)　保存の方法の基準
遮光した密閉容器に保存すること。
イ　製剤
(ア)　成分規格
ブチルヒドロキシアニソール製造用原体の成分規格を準用する。
(イ)　保存の方法の基準
ブチルヒドロキシアニソール製造用原体の保存の方法の基準を準用する。
⑾　プロピオン酸
ア　製造用原体
(ア)　成分規格
含量　本品は、定量するとき、プロピオン酸（$C_3H_6O_2$）99.0%以上を含む。
物理的・化学的性質
①　本品は、澄明な液体で、特異な臭気を有する。
②　本品は、水に極めて溶けやすく、アルコール、エーテル、クロロホルム及び酸に溶けやすい。
③　本品の水溶液（1→100）のpHは、2.0～2.5である。
確認試験
①　本品の水溶液（1→10）は、酸性である。
②　本品1mLに、エタノール1mL及び硫酸3滴を加え、水浴中で加熱するとき、プロピオン酸エチルの香気を発生する。
純度試験
①　蒸発残留物　本品50mLを水浴上で蒸発させた後、105～110℃で恒量にするとき、その残留物は、5mg以下でなければならない（0.01%以下）。
②　ヒ素　本品1mLを量り、ヒ素試験法第2法により試料溶液を調製し、装置Aを用いる方法によりヒ素の試験を行うとき、吸収液の色は、標準色より濃くてはならない（2μg/mL以下）。
③　重金属　本品2mLを量り、重金属試験法第1法により試料溶液を調製し、鉛標準液2.0mLを用いて比較液を調製して重金属の試験を行うとき、試料溶液の呈する色は、比較液の呈する色より濃くてはならない（10μg/mL以下）。
定量法　本品約3gを0.01gの桁まで量り、その数値を記録し、新たに煮沸し、冷却した水100mLを加えて溶かし、1mol/L水酸化ナトリウム溶液で滴定する（指示薬　フェノールフタレイン試液3滴）。同様の方法で空試験を行い補正する。
1mol/L水酸化ナトリウム溶液1mL＝74.08mg$C_3H_6O_2$
(イ)　保存の方法の基準
気密容器に保存すること。
イ　製剤（その1）
(ア)　成分規格
プロピオン酸製造用原体の成分規格を準用する。
(イ)　保存の方法の基準
プロピオン酸製造用原体の保存の方法の基準を準用する。
ウ　製剤（その2）
(ア)　成分規格
本品は、プロピオン酸製造用原体に、賦形物質を混和した小片又は粉末である。
含量　本品は、定量するとき、表示量の95～105%に相当するプロピオン酸を含む。
確認試験　本品の表示量に従い、プロピオン酸製造用原体約2gを含む量を量り、エタノール20mLを加え、沸騰した後、ろ過し、そのろ液1mLを量り、硫酸3滴を加え、水浴中で加熱するとき、プロピオン酸エチルの香気を発生する。
定量法　プロピオン酸（$C_3H_6O_2$）約2.0gを含む量の本品を有効数字3桁まで量り、その数値を記録し、1Lの蒸留フラスコに入れ、水200mL、塩化ナトリウム80g（79.5～80.4g）、10%リン酸溶液10mL及びシリコーンエマルジョン1滴を加え、蒸留装置に連結する。受器は、500mLの全量フラスコを用い、水20mLを入れ、冷却器の下端をこの溶液に浸す。水蒸気を通じて留液が500mLに近づいたとき、蒸留を止め、水を標線まで加えて500mLとする。よく振り混ぜた後、この溶液50mLを全量ピペットを用いて量り、0.1mol/L水酸化ナトリウム溶液で滴定する（指示薬　フェノールフタレイン試液3滴）。同様の方法で空試験を行い補正する。
0.1mol/L水酸化ナトリウム溶液1mL＝7.408mg$C_3H_6O_2$
(イ)　保存の方法の基準
密閉容器に保存すること。
⑿　プロピオン酸カルシウム
ア　製造用原体
(ア)　成分規格
含量　本品は、120℃で2時間乾燥した後、定量するとき、プロピオン酸カルシウム（$C_6H_{10}CaO_4$）98.0%以上を含む。
物理的・化学的性質
①　本品は、白色の結晶、顆粒又は粉末で、臭いはない、又は僅かに特異な臭いを有する。
②　本品は、水に溶けやすい。
確認試験
①　本品0.5g（0.45～0.54g）に水5mLを加えて溶かし、さらに、希硫酸5mLを加えて加熱するとき、特異な臭いを発する。
②　本品の水溶液（1→10）は、カルシウム塩の定性反応①、②及び③を呈する。
純度試験
①　水不溶物　本品10.0g（9.95～10.04g）を量り、水100mLを加え、ときどき振り混ぜながら1時間放置した後、ガラスろ過器（G4）を用いてろ過し、残留物を水30mLで洗った後、180℃で4時間乾燥するとき、その量は、0.015g以下でなければならない。
②　酸及びアルカリ　本品2.0g（1.95～2.04g）を量り、新たに煮沸し、冷却した水20mLを加えて溶かし、フェノールフタレイン試液2滴を加え、試料溶液とする。
試料溶液が無色のときは、0.1mol/L水酸化ナトリウム溶液0.3mLを加えるとき、紅色を呈する。また、試料溶液が紅色のときは、0.1mol/L塩酸0.3mLを加えるとき、その色は消える。
③　重金属　本品1.0g（0.95～1.04g）を量り、重金属試験法第1法により試料溶液を調製し、鉛標準液2.0mLを用いて比較液を調製して重金属の試験を行うとき、試料溶液の呈する色は、比較液の呈する色より濃くてはならない（20μg/g以下）。